



里海ガイド養成講座（応用）

開催しました！



- 日 時：令和2年 7月25日（土） 9:30～16:30／第1回目
令和2年 12月12日（土） 10:00～17:00／第2回目
- 会 場：三豊市役所仁尾支所、Free Cloud（三豊市仁尾町）／第1回目
北山コミュニティセンター（東かがわ市馬篠）／第2回目
- 講 師：松野 陽平 氏（絆創工房代表） 小前 昭二 氏（Free Cloud 代表）
森田 桂治 氏（NPO 法人アーキペラゴ理事）

◆実施概要

里海づくりをけん引する人材を育成することを目的に、里海体験ツアー全体のプログラムデザインが実施でき、里海体験ツアーのメインガイドが可能な人材を育成する講座として「里海ガイド養成講座（応用）」を開催しました。

2日間の講座以外にも、実際の里海体験ツアーの企画とツアー実施の際のメインガイドを務めました。

【第1回目】

7月25日（土曜日）に、第1回目の講座が三豊市仁尾町で開催されました。

受講生は、里海ガイド養成講座（基礎）を修了している6人です。最初に講師がガイドとなって、実際のツアーを体験しました

ツアー体験として、プロのシーカヤックガイドとして活動されている小前氏がガイドをするシーカヤックツアーに参加しました。2人乗りのシーカヤックで無人島である大鷲島まで行って戻って来る90分のツアーです。

受講生はツアーを楽しむ一方で、ガイド目線でツアーの流れやガイドの話し方や動き、リスクマネジメントへの配慮などを確認していました。



オリエンテーション



ツアー体験 カヤックの漕ぎ方をレクチャー

午後からは、午前中に体験したツアー内容を振り返りながら、ツアープログラムの流れや構成、ガイドが実際に行っていたことなどを模造紙に書き込んでまとめました。まとめた内容を元に、ツアーを組み立てる上でのポイントやガイディング方法などについて、講師が解説しつつ、受講生全員で共有していきました。

受講生からの意見では、ツアープログラムの流れや構成の中で、「導入→本編→まとめ」の流れを違和感がないようにデザインすることや、要所要所においてガイドから安全面の配慮や注意がなされていたことが、実際のツアー体験をとおしてプロガイドから得た「学び」として挙げられていました。



シーカヤック 楽しんでいます！



ツアー体験の振り返り

続いて講師から、ツアーの実例を挙げながら、ツアープログラムをよりよく組み立てる「プログラムデザイン」の方法について説明がありました。

その後、受講生は3人ずつの2グループに分かれて、実際にツアープログラムを作成してメインガイドを行う「里海体験ツアー」のプログラムづくりに取り組みました。ツアーのおおよその骨組みや、ツアー開催に向けての現地調査の計画を立て、第1回目の講座は終了しました。



ツアープログラムづくりにトライ

【第2回目】

12月12日（土曜日）に、東かがわ市馬篠の北山コミュニティセンターで、2回目の講座が開催されました。

はじめに、受講生が里海体験ツアーの企画をし、実際にそのツアーのメインガイドを行った内容の振り返りを行いました。受講生がガイドをしている様子を記録した動画を、受講生・講師・アドバイザーと一緒に見ながら反省や気づいたことの確認を行い、「振り返り」を進めました。

自分がガイドとして話をしている様子は、動画で見るチャンスはなかなかありません。このため、今回の動画確認によって、「話をする時の立ち位置」や「自分の声の大きさや口ぐせ」などを客観的に見ることができて、良い部分の一方で改善点など多くの気づきがあったようです。

また、振り返りの中で出た意見としては、受講生が実際にガイドをする中で、計画や企画段階では予想していなかったツアー参加者の反応もあったことから、様々なパターンを想定しながら臨機応変に対応することや、参加者からの予期せぬ質問にも対応できるための「引き出し」を多く持っておくことの大切さを感じたようです。

表1 受講生が企画、ガイドを担当した里海体験ツアー内容

受講生グループ	実施日時 活動場所	実施内容
西チーム (3人)	10/18(日)9:00~13:00 大島島(三豊市仁尾町)	無人島冒険スタンプラリー、貝殻標本箱作製、スナガニ採集体験、魚の鱗取り体験、里海ランチ(自分で鱗を落とした魚や野菜のBBQ、焼きそばなど)
東チーム (3人)	11/8(日)9:30~13:30 山田海岸(東かがわ市馬篠)	磯の生き物観察(生き物カードを使って生き物採集&観察、生き物ミニ実験、生き物スケッチ)、里海ランチ(プリ汁、プリの漬け、ご飯など)



西チームの里海体験ツアー実施中の様子



東チームの里海体験ツアー実施中の様子



第1回目講座と里海体験ツアーの振り返り



自分たちのガイドの様子を動画で確認

午後からは、午前中の「振り返り」で出た意見やツアー内容の改善点の洗い出しと、さらなるツアー内容のブラッシュアップの検討をしながら新しいツアープログラムづくりを行いました。受講生同士で意見を出し合いながら、講師やアドバイザーのアドバイスも参考にツアープログラムの修正を行い、収支計画も考えながらプログラムを組み立てました。改善したツアー内容は、模造紙にまとめて発表し、全体で共有しました。

受講者みんなで、考えを共有することで、より良いツアーづくりのためのサイクル「企画→実施→評価→体験」の重要性を感じていたようです。



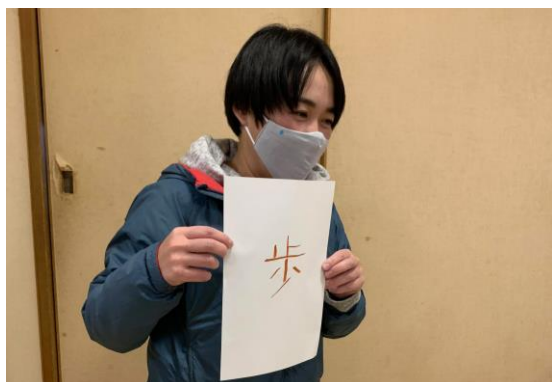
実施したツアー内容の改善点を話し合う



改善したツアー内容の発表

最後に行った、講座全体をとおしての振り返りでは、受講生から「実際のツアーガイドは難しかったが、多くの学びがあった」、「里海ガイドとしての一步を歩み始めたことが感慨深い」、「自分の伝え方をもっと上手に伝えられるようになりたい、楽しさを伝えられる人になりたい」などの意見がありました。

受講生全員が里海ガイド養成講座（応用）のカリキュラムを無事に修了し、新たに6人の里海ガイドが誕生しました。新たな里海ガイドの誕生で香川県の里海づくりをけん引する仲間が増え、今後の里海づくり活動が益々広がっていくことが期待されます。



振り返りの様子



新たに誕生した里海ガイド